



## ◇六月市議会報告

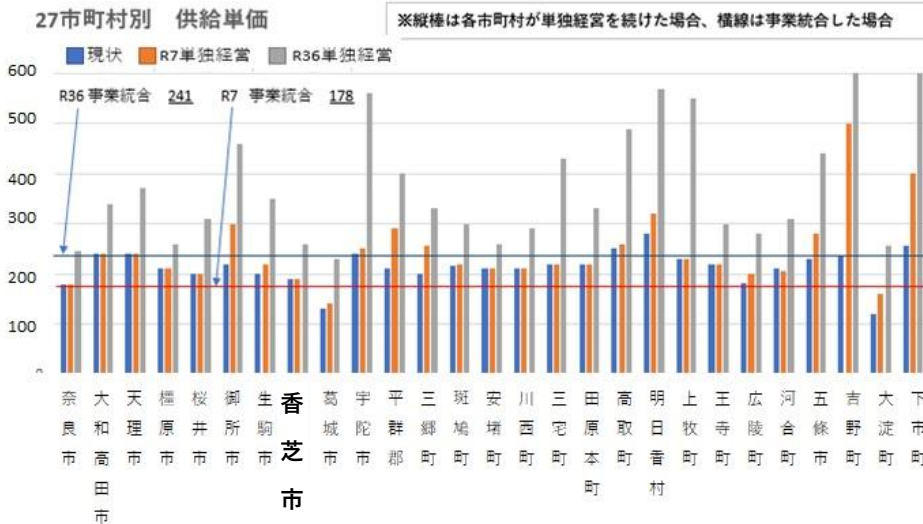
### ▼県域水道

#### なぜ一体化？

奈良県は、現在の県営水道と各自治体の水道事業を統合し2025年に新しい組織で事業を行う県域水道一本化計画(事業統合)を進めています。不安の声

- 「2倍の格差がある料金をいきなり県統一料金にしたらどうなるのか」
- 「市の浄水場や職員を減らす計画でないのか」
- 「広域化されたら住民の声は届くのか」

第2回県広域水道企業団設立準備会  
・資料より作成



**問題点**  
水道料金に市民の声の反映は？  
**主張**  
広域化後の水道料金計算の根拠があいまい。費用となる各自治体の施設維持費の根拠がまちまちで過大。参加自治体の数によっても変わります。頼みの、国・県の補助金も申請の6割が前例です。これでは市単独よりも料金上昇が少ないとしか言えず、統合し市民への直接責任を放手す代わりには、代償が大きいです。

市の水道財産が、なくなる？  
**主張**  
スケールメリットの中身は、料金だけでなく黒字の自治体が赤字の自治体の穴埋めをする。同時に永年積み立てた市の水道会計基金や水道の土地、資産も統合される事を意味します。郡山市では水道基金を市の本会計に移し、奈良市、葛城市でも問題視。香芝市の水道財産も吸収されます。

【スケジュール】  
水道一体化の流れ  
令和三年八月協議会設立総会及び第一回協議会発足  
令和四年八月第二回協議会、給水・供給単価の試算、基本計画骨子案協議  
令和四年度後半に基本協定締結令和六年度中に一部事務組合設立  
令和七年度から事業統合

青木議員に対する  
繰り返す懲罰動議は  
民主主義の破壊  
事の発端は昨年十二月の福祉教育委員会。青木議員の発言後、川田議長から「生活保護申請や国保減免申請などで市民に議員が同行してはならない。倫理条例に書いてあり、議員圧力である」と発言。青木議員から「困っている市民に寄り添うことは議員として当然のことである」とのことが議会を混乱させた。懲罰動議が出され、陳謝文の朗読を強要されました。それを拒否すると再度懲罰動議で陳謝文の朗読を強要。三度も繰り返され、七か月経過。議会議事録・録画を然るべき弁護士に検証、確認。青木議員の行動は懲罰には値しないとの結論を得ています。香芝議会が数の力による暴挙で言論の弾圧、基本的人権の軽視をするのなら、正々堂々と正面から闘ってまいります。皆さんのご支援をお願い致します。